

## 開会の辞

熱帯農業研究センター所長  
梶原敏宏

ご来賓並びにご来会者の皆様

農林水産省、熱帯農業研究センター、シンポジウム組織委員会を代表して、第21回 国際シンポジウム「遺伝資源利用による水稻育種」一日中共同研究一の開会を宣言致します。

まず始めに、中国その他海外からの御参会の方々、および国内からのすべての参会者に、心から歓迎の意を表します。

熱帯農業研究センターは、国際研究協力の面で、熱帯における農業技術の開発に貢献するために、1970年に設立されました。

私達の研究活動についての基本的な考え方は、熱帯諸国の農業開発の障害になっている問題を解決するために、海外の研究者と平等な立場で協力し、共同研究をすすめようというものです。

したがって熱帯農業研究センターの最も重要な活動は、熱帯の国々の研究所との農林業についての共同研究を実施することです。共同研究の分野は極めて広く、水産を除く農林業の全分野、すなわち、作物生産、地力維持、植物保護、林業、草地、畜産、農業土木等々であります。

これらの共同研究は、毎年、約40名の長期在外研究員を世界各国の研究機関、および国際農業研究機関等に派遣して実施しております。これまでに、主としてアジア諸国を対象にして実施して参りましたが、最近ではラテンアメリカ、アフリカへも研究員を派遣しております。中国雲南省農業科学院における共同研究もその一つとして位置付けられております。

熱帯農業研究センターのもう一つの重要な活動は、世界各国の科学者と情報や意見を交換するために、国際シンポジウムを開催することです。

この国際シンポジウムは1967年以来、毎年開催されており、これまでに、作物病害、畜産、作物育種法、適正施肥、水田の水管理、林業技術、熱帯大豆、農業利用、水稻二期作等のテーマが選ばれております。本年は雲南における日中共同研究の成果を中心とした水稻の耐冷、耐病、多収性育種を課題として取り上げました。

御承知のように、日中共同研究「遺伝資源利用による耐冷、耐病、多収性水稻の育種」は、日中両国の強い要望に基づいて1982年に開始されました。この共同研究は、1984年までの第Ⅰ期に引続き、1985-1987年の第Ⅱ期の研究が現在実施されており、すでに日中両国の研究者の努力により、両国の遺伝資源を利用して有望な系統が作出されています。このため日中両国の合意に基づき、去る9月、中国昆明において、立毛検討会が開催されました。この立毛検討会には日本側から関係者14名が参加、農牧漁業部外事司長 朱丕榮先生や、雲南省農業科学院院長 吳自強先

生、その他の方々の熱烈な歓迎と御配慮により、成功裡に終了いたしました。この立毛検討会において、私達は現在、共同研究により育成されている系統がすぐれた特性を有することを確認したところであります。

このような現状をふまえ、今回のシンポジウムはこれまでの研究経過をもう一度振り返りながら、その成果を検討し、問題点を十分把握し、さらに第III期の研究の進展に役立てるため開催することになりました。これは、誠に時宜を得たものと自負しているところでございます。

今回のシンポジウムのもう一つの特色は、これまでの20回の英語の使用に替えて、日本語と中国語を使用することです。このことはこのシンポジウムの内容が、すべて中国、あるいは日本における研究に関するものであることから、より十分な相互の理解を得、さらに今後の研究の発展のためには、より有効であるとの判断によるものです。一部の外国からの参会者には、若干御迷惑をおかけするかと存じますが、お許しを願い、本シンポジウムを通じて日中両国の遺伝資源を利用した水稲の育種が益々進展するよう、活発な討論をいただき、成功裡に終わりますよう、参加者の御協力をお願いし、開会の辞といたします。